

岩手縣田野畑村ペグマタイト鉱床(白珪石)調査報告

奥 海 晴*

Résumé

Pegmatite (Silica-stone) in Tanohata-mura Iwate Prefecture

by

Shizuka Okumi

In Autumn of 1953, the author examined an outcrop of pegmatite (silica-stone) in the neighbourhood of Tetsuzan and Numabukuro, Tanohata-mura. The pegmatite is small massive or lenticular in form in biotite granite and its grade is relatively high. The author described, in this paper, the grades, the reserves, etc.

1. 緒 言

昭和28年10月15日より22日まで、岩手県下閉伊郡田野畑村鉄山および沼袋部落附近のペグマタイト鉱床(白珪石)の、主として露頭調査を実施したので、こゝにその結果を報告する。

2. 調査区域および交通

調査区域は岩手県下閉伊郡田野畑村沼袋附近より鉄山部落の南方にかけての範囲で、沼袋および鉄山は国鉄バス岩泉線の終点岩泉駅の北北東直距約11kmおよび8kmにある。

当地に到るには前記岩泉線によるほか、八戸線終点久慈駅沼袋間の国鉄バス(普代線)を利用しうる(所要時間約3時間)。

搬出には久慈駅まで約40km、小本線宇津野駅まで約30km、東北本線沼宮内駅まで約100kmをトラック運搬によるほかなく不便である。

3. 地形および地質

区域は南北にのびた広大な底盤状花崗岩地帯のはゞ中央に当り、一般に起伏緩慢な丘陵地をなしている。

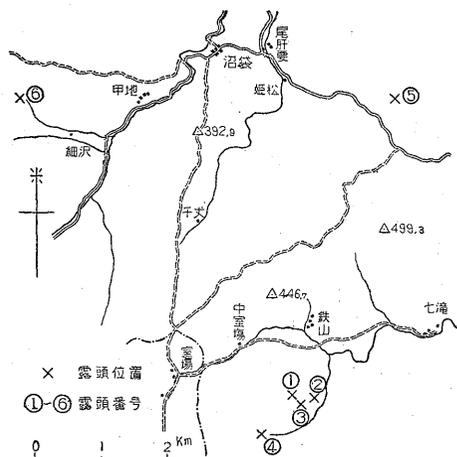
附近の地質は黒雲母花崗岩よりなり、処々にこれを貫ぬく半花崗岩岩脈がみられる。

黒雲母花崗岩は一般に優白質粗粒で、黒雲母は自形を呈し、底面の径1cm、厚さ1cmに達するものもある。本岩の西縁に当る沼袋西方のものはやゝ片状を呈し、かつ角閃石がみられる。半花崗岩岩脈は鉄山部落中室場のものは幅8mに達するが、他は幅1m内外で、走向は

大部分 N 20°W である。

4. 鉱 床

鉱床は前記花崗岩中に胚胎するペグマタイトで、露頭部分の珪石を若干採掘した第1露頭を除いてはまったく未開発である。観察されるのは露頭に限られているの



第1図 岩手県下閉伊郡田野畑村ペグマタイト
鉱床露頭位置図

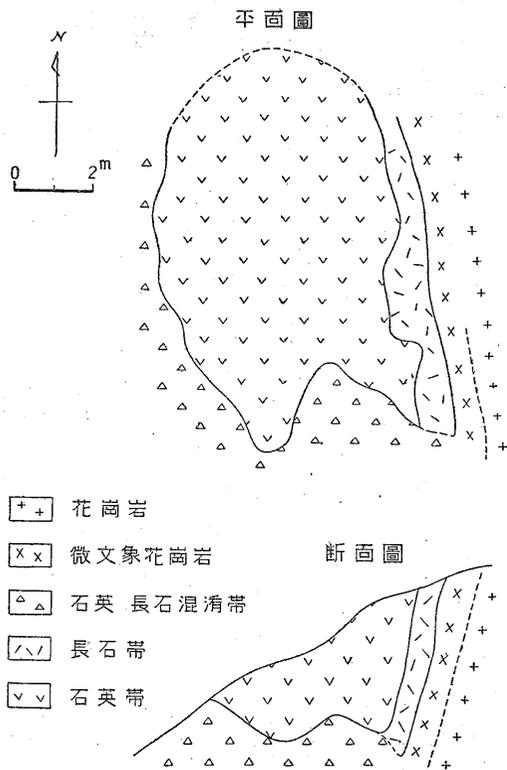
で、賦存状況を明らかにし得ないが、形状は不規則塊状あるいはレンズ状をなすものと考えられる。大部分 N 20° W の方向性を有する。

5. 露頭各説

5.1 第1露頭(第2図参照)

鉄山部落の南に当る水上沢の支沢火石窪にあつて、石英部分は南北に約8m、東西に約4mに亘つて露出し、

* 仙台駐在員事務所



第2図 第1露頭模式鉱床図

その東側で観察されるところでは東より西へ母岩・微文象花崗岩・長石帯(幅 0.2~0.5m) および石英帯の順に配列し、その西側は侵蝕により欠除し、石英の下部は石英・長石混淆帯となつている。石英・長石混淆帯にはチタン鉄鉱および磁鉄鉱がみられ、また同じ部分に自形のゼノタイムが認められる。

石英は一般に白色半透明で、長石帯あるいは石英・長石混淆帯との接触部ではやや灰色を呈し、また割目に微量の酸化鉄の汚染がみられるが、全体としては特選ないし1級に属し、その10%内外は光学用として選別しうらと思われる。

長石は淡桃色でほとんどカリ長石よりなり品質優良であるが、その量は少ない。

5.2 第2露頭

第1露頭と同一稜線上でその東方約 200m にあり、走向 N 40°W で幅 0.8m の微文象花崗岩の中央に幅 0.1

~0.2m の灰白色半透明の石英帯がみられるが、少量である。

5.3 第3露頭

火石窪南側支沢にあり、延長方向 N 20°W, 60°E に傾斜する幅 5m のレンズ状を呈する微文象花崗岩があり、そのほぼ中央に最大幅 0.5m のレンズ状をなす灰白色半透明の石英帯がみられる。

母岩との接触部附近ではマンガンの氧化物により汚染されている。

5.4 第4露頭

水上沢上流にあつて、径約 15m の範囲に塊状に露出し、まったく石英よりなり、その規模を明らかにし得ない。

石英は白色半透明で、割目に多少の酸化鉄の汚染がみられるが、全体として特級~1級に属し、その20%位は光学用として選別可能である。

5.5 第5露頭

沼袋の東方約 4km の板橋開拓部落の畑地にあり、径約 8m の範囲の露頭であるが、塊状の珪石および長石はみられず、石英・長石の混淆帯のみである。これを中心として N 20°W 方向に約 100m に亘り表土下より珪石が掘出される点よりみて、この範囲に鉍体の賦存が予想される。

5.6 第6露頭

沼袋の西南西直距 3km のゴマメ沢の東側山地にあり、附近は往時砂鉄が採掘された場所といわれ、処々に凹地がみられるが、その間に珪石が小高く埋もれ、賦存状態は明瞭でないが、珪石は全体として1級に属し、鉍量は附近の転石を合し 500t が予想される。

6. 鉍量 (印刷省略)

7. 結 言

本地域のベグマタイト鉍床はいずれも未開発で、比較的品质優良であるが規模は小さく、特に長石の鉍量は多くを期待し得ない。したがって開発の対象は主として白珪石であるが、これとても鉍石搬出に不便なので、価格の高い光学用ないし特選を対象とする必要がある。

将来開発に当つてはまず、表土はぎ等を実施し、鉍体の規模、品質を明らかにし、開発に値する鉍量の確保が必要である。
(昭和28年10月調査)